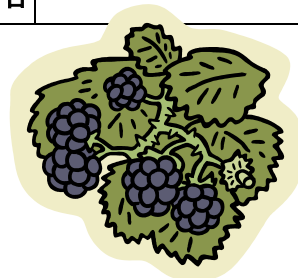


**\*県連のスケジュール**

●8月		●9月		●10月	
1	日	1	水	1	金
2	月	2	木	2	土
3	火	3	金	3	日
4	水	4	土	4	月
5	木	5	日	5	火
6	金	6	月	6	水
7	土	7	火	7	木
8	日	8	水	8	金
9	月	9	木	9	土
10	火	10	金	10	日
11	水	11	土	11	月
12	木	12	日	12	火
13	金	13	月	13	水
14	土	14	火	14	木
15	日	15	水	15	金
16	月	16	木	16	土
17	火	17	金	17	日
18	水	18	土	18	月
19	木	19	日	19	火
20	金	20	月	20	水
21	土	21	火	21	木
22	日	22	水	22	金
23	月	23	木	23	土
24	火	24	金	24	日
25	水	25	土	25	月
26	木	26	日	26	火
27	金	27	月	27	水
28	土	28	火	28	木
29	日	29	水	29	金
30	月	30	木	30	土
31	火				日



神奈川県勤労者山岳連盟  
〒221-0822  
横浜市神奈川区西神奈川  
1-18-2 永田ビル3階  
TEL/FAX 045-434-2726  
発行責任者 中山 建生  
編集責任者 村松 勝  
<http://www.k-rouzan.net/>

# 8

## 大日岳遭難事故の真実を究明する神奈川集会の報告

2004.7.25 理事長 中山 建生

7月24日川崎市の生涯学習プラザにて、大日岳遭難事故の真実を究明し、現在富山地方裁判所で争っている訴訟を支援しようという集会を開きました。

神奈川県保土ヶ谷区に住む内藤悟氏(原告の一人)は、国の責任を明確にして事故の再発防止を求めるため裁判を起こさざるを得なかったと語りました。

この事故は2000年3月6日に富山県の大日岳で雪庇の上で休憩した講師、生徒達が雪庇の崩落により雪崩が発生して行方不明となり2名が死亡しました。当初から事故の原因と問題点は登山関係者の間では、雪庇の上に乗ったこと、ルートへの誤り、下調べの不足、危険意識の欠如など、これまでの遭難事故の経験から分かっていた範囲で問題点の指摘がされていました。しかし、文部科学省が依頼した事故調査委員会の報告書は肝心な事故原因を明らかにせず、研修所の来歴、雪庇の形成などにほとんどのページを割いて、大日岳に形成された雪庇があまりに巨大なもので、だれもがこの大きさを予想することができなかったとして、『予見不可能』と結論を出し、国にも講師等にも一切責任はないとしました。

登山者の常識からして、過去に雪庇の踏み抜き事故から学んだことは、雪庇には近づかない、乗ってはいけないとされ、稜線＝地山の確認に神経を払うように教えられてきました。何回かこの事故発生地に足を運び、調査をした重野たつじ氏は、登山の基本とも言うべき、読図、位置確認、安全についての注意を払わなかった結果であり、講師などに大きな過失があると言い、今後、雪庇の事故を防ぐためにも原因を明らかにしてここから学ばなくてはならないと指摘しました。



重野たつじ氏の話聞き、会場からは次のような質問が出されました。講師らは事前に講習に伴う危険や講習内容に関して全体で研修をしたのだろうか、危険を感知した講師が他の講師にその旨を通知したのだろうかというものでした。また、この場所に雪庇ができることを知っていて、地山の位置を特定できなかったことは講師自らが無能であったことを証明し、研修所の責任が問われるのではないかと。この他にも事故原因と防止に関する質問(例えばGPSの利用はどうか)は続きました。だれもが疑問に思う事故の内容、わずかな登山経験を持つ人達からもこれはおかしいと感ずるものでした。

意見としてこの場合に、登山研修所が責任を持って事前に講師の研修をする、雪崩や雪庇の危険を予知する、回避する方法をきちっと確認することなしに講習を実施するのは正しくないこと。事故が起きた後に講師や生徒から事情を聞いて報告書に載せるなど事故の内容が誰にも分かるようにし、反省と教訓が整理されないと再び同じような事故を起こすことになること。

中山は雪庇の上に乗ったりしないためにどのような方法があるのか、具体的な話をしました。ルート中、事物が分かる所を見失わない＝シラビソ、岩などの目標物を確認すること、地図と磁石を使うこと、自分の位置が大日小屋と竜王山の直線上にあること、雪庇のできるような地形では風上斜面は雪が少なく、ピッケルやプローブ(ゾンデ)を利用して地山の確認をすること、不明瞭なら先行した講師などが地山を確認して赤布を立て、ここから外に出ないよう注意すること、などでした。国はやればできることをしないで、実用的でなく意味がないとか、実践的な訓練では赤布を立てないとか、ゾンデを挿しながら登山をしないなど見当違いで、責任逃れの主張ばかりをしています。この話を聞いた参加者は会場を去るとき、国は常識がなく、ごまかしと責任を逃れることばかり考えている。最近の三菱自動車、議員の国民年金未加入、病院のごまかし、言い訳と同じではないか、国のいい加減な講習で生徒が亡くなったのにと怒りを込めていました。

原告の一人内藤氏は、「子供たちになんの過失もなかったこと、原告等の要求や疑問を何ひとつ報告書に反映させなかったこと、肝心の事故原因を報告していないこと、嫌疑不十分で不起訴になった刑事事件についても私達の疑問に検察官は応えなかったこと、国は事故当初から私たちに誠実な対応をせず、聞いたことにも答えず、はぐらかすような態度に終始したため、裁判を起こさざるを得なかったこと、私たちは事故の原因を明らかにして、再発を防止してほしいと今でも願っていること、私たちは子供たちの死を無駄にしたくない、とりわけ山岳関係者の理解を得て署名を集めることで公正な判決を得ることにつながるとして、引き続き登山者への支援を訴える活動を続けたい。」と参加者に訴えました。

私たちはこの事故を他人事とせず、きちっと教訓を得ることが大切です。また裁判を支援することは単に内藤さんたちを励ますだけでなく、事故を起こしたことから反省して、責任を認めて再発を防止する真摯な態度を取らせることにつながります。放置しておけば無責任やだらしのなさ、社会的な責任を完うしないことが当たり前となり、登山そのものの価値を低くし、事故を防止する気持ちや活動を消極的なものにしてしまいます。

神奈川での集会はより多くの人達がこの事故への関心を深め、自らの山岳活動と登山の安全実施に努力されるよう訴えます。9月以降、労山の理想・安全登山の追求と事故防止(小林)遭対基金と損害賠償責任保険について(海輪)、山岳会・リーダーが問われる法的な責任など(竹森弁護士)を予定して、また裁判の進行に伴い内藤氏にも報告、訴えをしてもらう予定であることを発表して集会を終えました。(当日の参加者約30名)

会場の準備、当日受付などお手伝いいただいた皆様に感謝します。

#### ハイキングリーダー学校報告

7月11日、天園ハイキングコースと巡視路で地図読み山行が行われました。天気予報では午後から雷雨ということでしたが、午前中は日差しが強く暑い日でした。今回の目的は、地図にないコースを歩き、今どこにいるのか、これからどこへ向かって歩くのか、ということ学ぶと共に、鎌倉の知られていない裏道歩きを行いました。

昼間から雲が出てきたり、雷の音がしてきたので、下山の判断が必要になってきました。PM1:00前に二階堂の方へ下山することに決定し、鎌倉宮まで来たら雷雨となり1時間ほど休憩をとり今日の山行を終了としました。

今回は8月29日「葛葉沢」の沢登りです。

#### 事務局便り

事務局長会議報告 7月13日

出席会 川崎労山、川崎HC、川崎柴笛、AC横浜、横浜HC、こぶし、藤沢山の会、小田原ナーゲル、相模労山、みずなら、こまくさ、横浜山楽会、カモの会、白嶺岳和、地平線の会、山++ 以上16会

#### 内容

##### 県連からの報告

- 全国遭対基金会議の報告、遭対基金の申請時の注意について(遭対基金は会の代表が申請を行う)など
- 遭対部よりヒヤリハット体験報告書の要請:ヒヤリハットを含めた事故事例のデータベース作成のため。



小松原湿原の木道

第3回遭難対策基金全国会議出席報告

海輪 利昭

<p>藤沢山の会 報告 清水 守 計95名 (男36:女59) 平均59歳</p>	<p>7月 6/30～2日-早池峰(3) 6～10日-旭岳・羊蹄山(9) 8～12日-羅臼・斜里・雄阿寒岳(4) 17日-御坂黒岳(9) 17～19日-白馬岳(4) 20～23日-朝日岳(5) 23～24日-沢登り・水根沢(7) 25日-地図読み・盆前山(10) 他23件 8月 7/29～30日-薬師岳 6～9日-朝日連峰 7～11日-白馬岳 11～16日夏山合宿・涸沢集中 21～22日-沢登り・釜の沢 24日-秋の花観察・大菩薩 2～25-ペルー・アンデス 9月 11～12日-沢登り・米子沢</p>
<p>アルパインクラブ横浜 報告:幸孝憲  計33名 (男19:女14) 平均38歳</p>	<p>6月 9、22日例会、13日総会、16日運営委員会 25日北海道黒岳(1)、25日～7月5日モンブラン他(2)、26日蛭ヶ岳(1)、26日岳嶺岩(3)、26～27日甲武信岳～十文字峠(2)、26～27日奥秩父滝川本流～水晶沢(1)、27日三ツ峠(7)、27日黒斑山(1) 7月 14、27日例会 7日山賊編集会議 3～4日北岳バットレス(2)、3～4日ハヶ岳(4)、4日丹沢水無川本谷(2)、4日北丹沢12H耐久レース(1)、4日三ツ峠(2)、那須岳阿武隈川南沢(2)、4日小川山(3)、10～11日小川山・登攀技術講習会(17)、13日小川山(1)、17日塔ノ岳(1)、17～18日小川山(1)、17～18日北ハヶ岳(1)、17～19日小川山(2)、17～19日唐松岳～爺ヶ岳(2)、18日榛名山黒岩(3)、18日丹沢表尾根(1)、18日御嶽山(1)、18～19日ハヶ岳(1)、19日奥多摩水根沢(2)、23日富士山登山競争(1)、24日小川山(4)、24日南ア大武川篠沢(1)、24～25日小川山(2)、24～25日月山蔵王(1)、24～25日白馬岳(1)、25日小川山・カサメリ沢(1)、25日金峰山(3)、25日セドノ沢左俣 源次郎沢(3) 8月 24日例会</p>
<p>相模勤労者山岳会 報告 藤田耕市 計44名 (男27:女17) 平均49歳</p>	<p>07月 14日第1例会、3日奥秩父・井戸沢(2)、火打石谷(4) 日光・奥白根山(3) 10日渡良瀬川・庚申川本流(5) 11日丹沢玄倉川(4) 網笠山(5) 14日富士山(1) 17日丹沢・水無沢本谷(2) 18日丹沢・小川谷(4)、富士山(3) 17日霞沢岳・焼岳(1) 19日大滝沢本流(4) 23日大武川・篠沢(2) 富士山レース(2) 25日キューハ沢(2) 08月 4日第1例会、25日第二例会 1日エビラ沢 12-14日いわな山行 09月 8日第1例会、29日第二例会 25-26日 奥秩父沢集中</p>
<p>横浜山楽会 報告 菅野藤雄 計:24名 (男:13名、女:11名) 平均:61歳</p>	<p>7月4日 沢登り 源次郎の沢 5名 7月8日 例会 12名 7月11日 例会 山行 塔ノ岳 7月17日～18日 尾瀬燧ヶ岳 中止 7月 19日～21日 ハヶ岳縦走 1名 8月4日 例会 8月22日～24日 北ア 針ノ木岳他 8月27日 テント山行 オーレン小屋 9月7日 三ツ峠 9月8日 例会 9月12日 例会山行 塔ノ岳 9月26日 岩トレ 広沢寺 9月29日 飯盛山</p>
<p>こまくさハイキングクラブ 報告 山田日出子 計18名 (男4:女14) 平均61歳</p>	<p>6月 13日 ウォーキング京急沿線奥釜利谷16名、27日 鎌倉大仏コースハイキング 23名、28日 役員会6名 7月 1日 大楠山 2名、4日 丹沢 4名、11日 HCリーダー学校鎌倉3名、18日 奥多摩ロックガーデン、24-27日 槍ヶ岳</p>

初めて労山の全国会議に出席しました。  
遭難対策基金を請求することなく過ごせば良いのですが、所属会でも請求した実績が何件もあり、今や登山にとって欠かせないものとなっています。

また、私自身が損保業界にいることから遭難対策基金のあり方については「完全な性善説に基づいた運営で良いのだろうか。」との疑問を持っていました。

性善説とは「事故の当時者が基金の給付を請求できるか否かの判断権者である。」ことです。ご承知のように遭難対策基金の請求をする要件とは、計画書の提出と入山連絡があることです。あつたかなかったかは遭難基金管理委員会では知る由もありません。

このような必要条件を設けながら当事者(会)に判断権を委ねるものは、損害保険にはありません。

この点に関して山本委員の「遭対基金の生い立ちとその精神」についての講話は非常に貴重なものでした。

私の所属会でも殆どの会員が遭対基金＝山岳保険と理解していると思います。

実際に金銭の給付がおこなわれている点からは同じです。しかしながら、請求者と支払側との信頼の関係が異なります。

例えば山岳保険では既往症がある疾病などが原因となっている場合には免責となることが多いと思います。でも遭対基金では医療面での確認もなければ既往症などに触れた診断書の提出義務もないのです。

それだけに、これからの遭対基金の健全な運営と発展には会員相互、山岳会相互、更に地方連盟相互の信頼が必要なのです。

27日の議事の中で竹森裕子弁護士の講演につきましては中山理事長の「報告と意見」で説明されていますので、討議内容について報告します。

1. 組織面

- ① 会員の減少が生じており、特に大型ハイキングクラブの脱会があるがその原因について全国として分析しているのか。ハイキングクラブに在籍のメリットがないとすればハイキング中の事故に対する給付率(現行3倍)を更に引き上げたらよいのではないか。

(これに関しては組織拡充と遭対基金のあり方については考え方を分けるべきで、条件で誘うような形では労山の本来的な活性化は望めない。等の反論がありました。)

- ② 最近相当な実績がある山岳会が労山に数会加入しているが、連盟活動にも積極的に参加するよう要請したい。(連盟活動への不参加は遭対基金目的と推定される。)

2. 財政面では資産としての不動産購入よりも、いざという時に現金化しやすい保管をすべきとの意見が述べられています。
3. 安全対策基金  
現在、1000万円(年)の予算が組まれているがその用途について。また、留保金が毎年増額しているのだから、予算を増やしそれぞれの地方連盟で安全登山の為の講習会開催等を更に推進すべき主旨の意見が報告されています。

○ 出席者として以下の意見を述べています。

- ① 各山岳会が遭対基金の理念を会員に情宣する必要がある。
- ② ハイキングの3倍給付については入金・出金の差異から検討を要するものと考えますが、ドア-toドアとかゲレンデでのスキー事故まで範囲を広げる必要があるのか。(計画書が山スキーの練習の場合)
- ③ 安全対策基金の拡充と有効活用。
- ④ 留保金が一定額を超えているのであれば、無事故者に対する割引も検討しても良いのではないか。

以上



奥多摩石尾根から望む富士山

神奈川県勤労者山岳連盟各会の活動報告と予定

小田原ナーゲル山の会 報告:青木義隆 計34名(男性24:女性10) 平均47.1歳	【報告】6/13 丹沢政次郎尾根(1) 6/14 二宮金次郎芝刈り路(1) 6/19東丹沢谷太郎川鳥屋待沢(3) 6/26 南ア富士見山(1+1) 6/27 北八ヶ岳縞枯山(6) 7/2 丹沢四町四反の沢(手沢)(1+1) 7/3 三つ峠(2+1) 7/4 広沢寺(2) 7/5 大菩薩牛奥雁腹摺山(5) 7/9-7/11 南ア光岳(2) 7/17-7/18 南ア甲斐駒ヶ岳(2+1) 7/18-7/19 丹沢主脈縦走(1) 7/21 丹沢三ノ塔・塔ノ岳(1) 7/24 南ア篠沢(1+2) 8/1 富士山(2) 【計画】8/22丹沢小川谷廊下 9/4 夏期キャンプ丹沢 11/14 箱根金時山クワンハイク 9/17-20 佐渡の山旅 10/9-11 東北地方の山
横浜ハイキングクラブ 報告 木村 真由美 計54名 (男14名、女40名) 平均59才	6月 6日 桜洞丸(雨天中止)、12日 大室山加入道山(4名)、12日~13日 唐松尾山(雨天中止)、10日 室内例会 19日 機関誌、運営委員会 7月 3~4日 山伏、笹山(2名)、10日 奈良倉山(16名)、19~22日 雄山~奥大日岳、称名滝、23~25日 燕岳~常念岳、28~31日 中央アルプス、8日 室内例会、17日 機関誌、運営委員会 8月 6~9日 鳥海山~月山、11~14日 奥穂岳、21~24日 槍ヶ岳、24~26日 西穂岳、12日 室内例会、21日 機関誌運営委員会
横浜こぶしの会 報告 源馬顕 計23名 (男18:女5) 平均45.5歳	7月 2日~3日 楡形山(4)、2日~4日 焼石連峰(2)、6日 役員会、8日 例会、11日 岩トレ@広沢寺(5)、16日~19日 扇沢~爺が岳~針の木岳~蓮華岳~扇沢(3)、17日~19日 白馬三山(1、会員外4)、27日 例会、29日~8月1日 早月尾根~剣~室堂(2)、31日 会低山@谷川岳天神尾根 8月 4日 役員会、5日 例会、24日 例会 9月 9日 例会、25日~26日 こぶし祭り@清川リバーランド、28日 例会
川崎勤労者山岳会 報告:佐々木利江 計48名 (男29:女19) 平均45.6歳	6月 2日 運営委員会、5日 議案書印刷、9日 山行例会、20日 総会 7月 7日 運営委員会、14日 山行例会、28日 例会・机上、31・1登) 縦走実技・北ア、3~4日 丹沢・沢ト水無川本谷・小川谷(5)、雲取山・縦走ト(10)、10~11日 岩トレ・つづら・越沢(5)、11日 丹沢・沢ト背戸の沢(7)、16~20日 高(1+2)、17~18日 富士山(1+1)、17~19日 北ア・白馬岳(2)、18日 沢・ポッカ(1+1)、19日 広沢寺・岩トレ(2)、19~20日 北日高(1+2) 24~25日 三つ峠・岩トレ(4)、25日 三つ峠・岩トレ(9)、丹沢・ポッカ(1)、県リーダ校・沢・丹沢・源次郎(2) 8月 4日 運営委員会、18日 登) 沢・机上、25日 例会
やま++ 報告 柴田 勇作 計8名 (男7:女1) 平均48歳	7月 3日 北八ヶ岳・高見石~ニューウ(7+2) 4日 清川青少年センター・レスキュー、夏山の気象講習(6+5) 7日 富士山(1+1) 14日 机上講習・沢Ⅱ(6) 17日~19日 北ア・笠ガ岳(4) 17日~19日 西穂~奥穂(2) 24日 苗場山(1) 28日 例会・百合丘(6) 8月 7/31日~3日 東北・朝日連峰 12~14日 北ア・槍ヶ岳 22日 沢 25日 例会・百合丘(講座 高山植物) 8日~29日 南ア・駒ヶ岳(黒戸尾根) 9月 5日 RCT 18日~19日 南ア・越百 22日 例会・百合丘(講座 秋の星座) 25日~26日 尾瀬
川崎柴笛クラブ 報告 山村美知 計23名 (男18、女5) 平均46歳	6月 5-6日 山菜山行(慰霊) 鹿島槍7名、鹿島槍東尾根1名、5日 丹沢ハイク、6日 県連確保トレ3名、13日 読図山行(教育)3名、14日 中央アルプス(PH)1名、17日 谷川岳ダイレクトカンテ(PC)1名他1、つづら岩RCT1名他3、20日 小川山RCT1名、読図(リーダ学校)4名、21-24日 スイスアルプストレッキング1名他1、26日 日和田山RCT1名、27日 雲取山ハイク1名、28日 小川山RCT1名、30日 南ア ハイク1名他3、小川山RCT1名他2